

第 92 回 地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会 会議録

日時	令和 4 年 3 月 3 日（木） 13:00～15:00
開催場所	横浜市役所18階会議室 なみき19
出席者 【敬称略】	部会委員）杉崎、朝比奈、飯尾、植松、加藤、川原（オンライン参加）、後藤、 松村（オンライン参加） 事務局 ）横浜市：榊原、萩原、村田、田口、秋浦、石田 市民セクターよこはま：加世田、山田 横浜市住宅供給公社：土屋、高橋、岡部、都出
開催形態	公開
議題	(1) 2次コンテスト振り返りについて (2) 令和4年度整備提案募集について (3) 過年度整備施設の調査について (4) 令和3年度整備施設の状況について (5) その他
決定事項	第93回部会は6月14日14時から17時で開催する。

議事	
事務局	1 定足数の確認 会場参加及びオンライン参加を合わせ過半数の委員が参加しているため、部会開催の要件を満たしている。 2 議題について説明
杉崎	議題が多いので、報告事項から先に進める。議題4、1、2、3の順で行う。
事務局	(4) 令和3年度整備施設の状況について 「資料4 ヨコハマ市民まち普請事業令和3年度整備施設の状況」を説明
杉崎	状況の報告について、今回のようにグループのインスタグラムなども紹介してくれるのは良い。
事務局	(1) 2次コンテスト振り返りについて 「資料1-1 2次コンテスト開催概要・振り返りについて」を説明
杉崎	はじめに、委員から振り返りをひとつずつ頂きたい。
後藤	「委員同士の意見交換」の内容に関しては後ほど議論するときに話す。結果に関しては妥当だと思っている。
加藤	展示ブースは確かに活用できていなかった。選考については事前の心配事はあったものの、妥当な結果となった。落選したグループへのフォローなども適切であった。
植松	「委員同士の意見交換」の内容に関して、2次コンテストの前にもっとつっこんだことを議論したら良いのではないかという意見を出したが、杉崎委員から、そこで議論を煮詰めてしまうと審査の方向性を定めてしまうことになりかねないという意

	見があったため、今回の進め方になった。結果的に良かった。
飯尾	お昼の休憩時に行った審査員間での情報共有の時間は、自分の認識不足の点を他の委員から聞き取れたので、有意義な時間だった。
朝比奈	2回目の提案について、史季の郷に対しての結果は妥当だと思うが、問題提起をいただいたと思っている。史季の郷が拠点として活動をしてきたからこそ、地域の課題が集まってきた。それに対してまち普請の事業という枠組みの中では、応えることが出来ないものだった。まち普請で出来上がった拠点へのサポートを今後どうやって行うかの検討が必要だと感じた。コンテストの進め方については、コンテストを通してグループの皆さまと応答したいと考えているので、どうしてもグループのプレゼンテーションの次に行う「委員同士の意見交換」の時間は質問したいことのみまとめになってしまう。「委員同士の意見交換」と「質疑応答」の区別は難しい。昼休憩時の委員の情報共有の場は必要だ。
杉崎	YouTube配信を見ていたが、事業やコンテストの説明が丁寧にされたことで分かりやすく、公開性が保たれていた。
松村	昼休憩の委員での情報共有は、1次コンテスト時と比べ、時間配分がしっかりとされていて良かった。ホワイトボードに書かれていたことにも執着せずに議論ができた。展示ブースに関しては、ブースに展示するものを作成する労力に対し、活用ができなかった。「審査員の意見交換」の内容に関しては、審査員の合意形成の時間になってしまうのは良くない。見方はクリアになった方が良いが、良い点が出たら悪い点を指摘するなど、視点を増やすことが大事だ。
川原	審査員長代理をしたが、全体的に流れは良かった。1点だけ、情報収集タイムの進め方についてだが、直前の「審査員による意見交換」の際に審査員側から質問事項を投げかけているのだから、先に質問に対する説明をグループから聞くべきだった。
杉崎	「審査員による意見交換」の進め方についてだが、平成29年度以降は昼休憩前の意見交換から、情報収集タイム、公開議論・質疑の時間までをトータルで見て、グループの提案を審査することにした。その結果、審査をするにあたり必要な情報が整理され、判断を的確に行えるようになったので、このやり方の意味はある。ただ、この時間を設けた当初は、委員同士のディスカッションを行う主旨だったが、なかなかうまくいかないのが現状だ。
後藤	改めて振り返ると「審査員による意見交換」の際に審査員同士が意見交換してはいなかったが、それで良かったのか。
川原	意見交換のイメージはどのようなものか。
杉崎	「私はこういう点を問題と感じます」という意見に対し「私はこのように理解しましたので良いと思います」という意見を出すなど、違う視点で意見を出し合うことを想定しているが、5年やってみてもそのようにはいかない。ただ、今のやり方で

	も結果として、委員の質問を出し合うことで多様な意見が出せているので、目的は達成しているのではないか。
川原	私は意見交換ができたと思っている。審査員席が提案グループの方に向いているから提案グループに向けて話す表現になっているだけで、委員同士の席を向き合わせれば、同じ内容を違う言葉で表現することになるのではないか。 事務局はどのような観点で、この議題を挙げているのか。
事務局	「審査員の意見交換」という時間は、A評価の委員に抜けているC評価の委員の視点等、違う評価をした人同士のやり取りを想定しているが、実際は各委員の質問をまとめる場となっている。それについて、目的を達成するためにどちらの方が良いかなどのご意見をいただきたい。
川原	少なくとも私は違う評価をした委員の意見を聴いていた。目的は達成している。
杉崎	目的はB・C評価の観点について審査員の理解が不十分であることを提案グループに伝え、審査員に対し補足の説明ができるようになることだ。審査ができているのであれば、これまでのやり方でよいのではないか。むしろ審査員同士の議論はしなくてよいのではないか。
加藤	審査員の意見交換が、情報収集タイムにつながりますよということを提案グループに伝えられれば良いのではないか。そういう意味では、川原委員の意見にあったように、「情報収集タイム」はグループの話からはじめるとよい。
事務局	委員同士の喧々諤々としたやりとりがまち普請らしかったというのはあるが、今の委員が審査をしやすい方でよい。「意見交換」という名称が適切なのかは検討する必要がある。
川原	喧々諤々とした議論はおもしろいが、様々な性格の審査員がいなければ成り立たない。さらに、議論が偏る可能性もある。時間も必要だろう。たしかに、「意見交換」という名称が適切なのかは考えていただきたい。
松村	基準別評価の評価が割れた部分について、双方の意見を聴くように進行を行うのはどうか。
杉崎	まち普請は審査を公正に行うために、いかにクリアにしていくかを突き詰めているのに対し、ここで議論してしまうことで逆に審査の方向性を決めてしまうことになりうるため、今の内容になったと認識している。 委員の中で時間の意義は共有でできたので、今回のやり方を大きく変えず今後さらに質の高い対話をしていくということでまとめたい。 展示ブースの活用についてはどうか。
加藤	新型コロナウイルス感染症の流行前は模造紙を使ったプレゼンテーションだったため、そのままブースに飾ればよかったが、今はパワーポイントを使っているためグループの手間は増える。展示ブースの意義は再考が必要だ。
川原	パワーポイントは一人で作ることができてしまう。模造紙はグループのメンバーが

	皆で分担して作ることで、発表者以外が自分の思いを表現する場になっていると感じたので、有効だ。
杉崎	コロナ禍ということもあり、ブースを活かすか辞めるかについて今は結論を出せない。むしろ、プレゼンテーションの手段を模造紙に戻すかといった議論のほうが先に議論すべき内容なのではないか。
事務局	新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中で、模造紙のみとすることは難しい。
松村	パワーポイント内のビデオレターで会場に来ることができない方の顔が見えたことはよかった。
事務局	新型コロナウイルス感染症の流行前は、1次は模造紙のみ、2次はパワーポイントも使えた。どちらにするかはグループによって判断すればよい。
杉崎	展示ブースの使用についてはグループにお任せし、「パワーポイントや動画で表現できないものをここで表現するために積極的に活用してください」と案内してはどうか。
事務局	いただいた意見を踏まえ、コンテストでの効果的な表現は何かを伴走支援を通じてグループと一緒に考えていくこととする。 情報収集タイム時に、事務局が委員と提案グループとの議事内容をホワイトボードに書きだすことについてはどうか。事務局としては手元でメモを取ったものを委員に共有する形でよいと思っている。
朝比奈	委員のためにもなっているが、グループのためにもなっているため、ホワイトボードに書き出すことが有効だ。
事務局	開票方法についてはどうか。
加藤、川原、飯尾	1次コンテストよりも2次コンテストの方法のほうが良い。アナウンスは司会にお願いしたい。
事務局	(2) 令和4年度整備提案募集について 資料2「ヨコハマ市民まち普請事業 令和4年度事業スケジュール(案)」を説明。 第93回については、6月14日14時から17時までで確定。 令和4年度の提案募集の前に、整備から5年(新築の場合は10年)が経過していない過年度整備グループによる提案の取り扱いを整理する必要があり、「同じグループ(同じ人員構成)」かつ「同じ場所」であった場合は「提案は受理しない」と考えているがどうか。
杉崎	ソフトな事業だと、同じ内容の提案には〇回まで助成しますという仕組みになっているが、仕組みを作ったところで排除することは難しい。
加藤	まち普請の仕組みだけでは対応できないのではないかと。まち普請は整備するとき500万円を助成する事業であるから、その先は各グループが自力で努力し、どのように継続していくか考えるべきではないか。他の助成金を使う、事業委託として受ける

	等を模索することも必要。まち普請事業は活動のスタートアップ支援という意味合いもあるから、同じ人に助成するのは反対。「提案は受理しない」でよい。
飯尾	ボランティアで活動をしているグループにとっては、自力で活動継続の資金を捻出するのは難しい。2回目の提案も受け入れてほしいと思うのではないか。
朝比奈	市などで行っている他の支援策と連携する等を検討するのはどうか。
杉崎	議論としては、一つ目に応募要件で「提案を受け付けない」もしくは「受け付けて審査で判断する」のどちらかだ。二つ目に、提案を受け付けないのは「同じ人」なのか、「同じ場所」なのかだ。
川原	事業主体になる人が別であればよいのではないか。審査で見ると別の場合は、別の審査基準を設けるのは好ましくない。まち普請で整備した場所で活動していた人がスピントアウトして他の場所で提案するものは排除したくない。
松村	同じグループに対しそれほど期間を空けずに500万円を再度助成するのは、市民としては違和感を覚える。
杉崎	場所の観点を入れるのは難しいので「同じメンバー構成、同じグループは応募できません」としてはどうか。
事務局	同じメンバー構成・同じグループからの提案については事務局で「提案を受理しない」と判断するということがよいか。
川原	事務局判断で良い。
植松	場所の観点を入れたのはなぜか。
事務局	まち普請はハード整備に対する助成であるから、特定の施設に偏って助成をしないという意味で、場所の観点を入れるべきだと考えている。
事務局	(3) 過年度整備施設の調査について 資料3「過年度整備施設の調査について」を説明。 定量的評価、整備後支援のあり方を検討する基礎情報の収集を目的にしていたが、施設の内容、現状の使われ方、抱えている課題が多様すぎるため、まずは全体の状況を把握したいと考えている。その後、定量的評価、事業支援のあり方検討につなげる。
後藤	全体のヒアリングは大変だと思うので、アンケートを先にやるのはどうか。
事務局	アンケートの送付先（現在の運営者）についても把握していないグループもある。
川原	ある程度把握したい内容はあるか。ある程度質問を準備したうえで、さらに聞き出すと良い。何を指していくかにもよるが、ハードの助成なので図面は手に入れると良い。2次コンテストの時に審査した内容について、実現しているかの内容を把握するための資料を求めると良い。
事務局	年間の活動収支はもらおうと考えている。図面の観点は新たに頂いたもので、求めようと思う。
植松	令和4年度の提案募集に際し、居場所に偏らないような策を講じているか。

杉崎	事業の成果として居場所のことは伝わっているが、公園や道路などの整備については伝わっていないのではないかと。広報で居場所づくり以外の写真を載せるなどを検討してみてはどうか。
事務局	広報について、パンフレット等では「分野を問わない」ことを記載しているが、居場所づくり以外を積極的に案内するところまでは至っていない。
植松	区役所の職員に周知し、市民に紹介してもらおうのはどうか。
事務局	これまでも区役所、包括支援センター等から市民に情報提供していただくために、説明や研修を行っている中で、「分野を問わない」提案に対する事業だということは伝えている。今後、広報の仕方を検討する。
事務局	(5) その他 審査員からの講評について、趣旨と構成をまとめたので必要に応じて事前に頂いていた文案の修正をお願いしたい。 (質疑なし)
資 料	0 次第・名簿・座席表 1-1 2次コンテスト開催概要・振返りについて 1-2 2次コンテストアンケート結果(概要) 2 令和4年度スケジュール(案) 3 過年度整備施設の調査について 4 令和3年度整備施設の状況